

audient

iD22
日本語ユーザー・マニュアル
Apl.2018



audient 製品をお買い上げいただき、誠に有難うございます。

iD22 には、Audient が長年積み重ねて研究して来た、高性能なアナログ/デジタル回路のデザインが活かされています。

iD22 に、マイク、コンピューター、モニターを接続するだけで、あなたの DAW スタジオがワールドクラスのレコーディング・スタジオと同等のシステムに生まれ変わります。2 系統のクラス A マイクプリアンプが搭載されており、入力信号は 24-bit/96kHz の AD/DA コンバーターでドライブされます。また、搭載された ADAT 入出力を使用して、入出力それぞれに 8 チャンネルを追加することも可能です。

大型コンソールと同様のモニターコントロール機能と USB 2.0 駆動のインターフェースを、デスクトップサイズにパッケージしてここに完成しました。

主な特徴

- 2-in / 6-out
- 高性能 24-bit / 96kHz AD / DA コンバーター
- 2 系統の class-A マイクプリアンプ
- 1 系統のディスクリート JFET 楽器入力 (D.I)
- アウトボードの接続が可能なバランス端子のインサート入出力
- 独立 DA コンバーターによる高出力のヘッドフォンアンプ
- モニター MIX 用の低レイテンシー DSP ミキサー
- メイン出力/サブ出力 切替え可能なステレオ・ライン出力
- ユーザーによるアサインが可能なハードウェア・コントロール×3
- USB2.0 対応
- DSP ミキサー・ソフトウェア
- 頑丈な金属製の筐体と、アルミ素材の大型ノブ



もくじ

パッケージの内容	
ソフトウェア・ダウンロード	1
日本語マニュアル・ダウンロード	1
電源アダプター	1
オーバービュー	2
動作環境	3
クイック・スタート&セットアップ	
ドライバーソフトウェアのインストール	3
iD22とコンピューターを接続する	3
ステータス LED、接続の確認方法	4
「iD ミキサー」アプリケーションの起動	5
ハードウェア	
マイク入力（プリアンプ）&ライン入力 (MIC/LINE 1~2)	6
楽器入力 (D.I)、バランス (SEND / RET 1~2)	7
インサート接続、AD コンバーターへのダイレクト接続	8
入力ステージのブロック・ダイアグラム	9
アサイン可能なライン出力と DAC	10
一般的な出力ルーティング	10
DAC / ライン出力のルーティング	11
「iD ミキサー」のルーティング例	12
ヘッドフォン出力、デジタル入出力	13
モニターコントロール、モニターコントロールの特徴	14
メーター、ステータス LED	15
スイッチ操作、Kensington ロック	15
出力ステージのブロック・ダイアグラム	16
ソフトウェア	
入力チャンネル（チャンネルの種類）	17
チャンネル・ストリップのコントロール	18
ステレオ・リンク、便利な機能	19
マスター・セクション	20
チャンネル表示、ボリュームコントロール	22
F、Σ、Ø、TB、ALT スイッチ	23
システムパネル	24
セットアップ画面	25
トークバックのアサイン、グースネックマイクを接続する	26
出力ルーティング	27
ミキサープリセットのセーブ&ロード	28
DSP ミキサーのブロック・ダイアグラム	29
キーボードのショートカット一覧	30
Pro Tools セットアップ	31
Logic Pro セットアップ	32
Cubase / Nuendo セットアップ	34
Ableton Live セットアップ	36
トラブルシューティング	
電源が入らない場合	37
コンピューターに接続しても音が出ない場合	37
Pro Tools と外部機器のクロックが同期しない場合	38
「iD ミキサー」の設定をデフォルトに戻したい場合	39
ファームウェアが最新のバージョンか知りたい場合	39
スペシフィケーション	40
サイズ・寸法	41

パッケージの内容

iD22 のパッケージには、以下のハードウェアが同梱されています。

- iD22 本体
- 12VDC 電源アダプター (各国対応 AC プラグ付き)
- USB (A-B) ケーブル

※ソフトウェア (ファームウェア、iD ミキサー) やマニュアルは同梱されておりません。下記の web ページからダウンロードしてください。

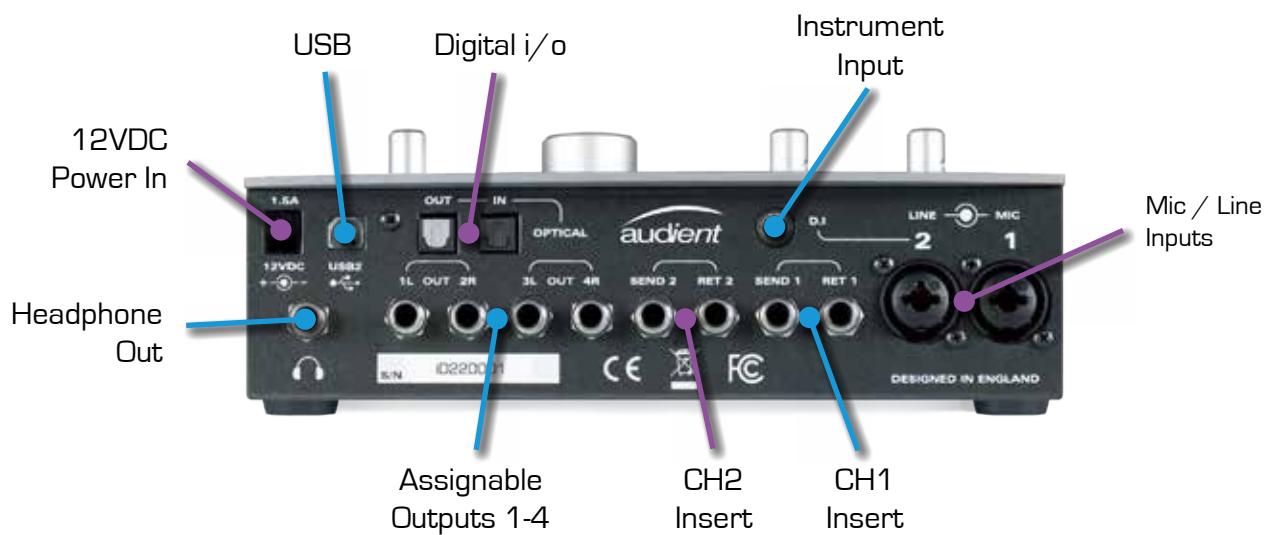
ソフトウェア・ダウンロード URL

<http://audient.com/products/downloads/id22>

電源アダプター

iD22 の正常動作には 12VDC のパワーサプライが必要です。
付属のスイッチング型の電源アダプターは、90 ~ 264V (47 ~ 63Hz) の交流電源に対応しており、日本国内でそのままお使い頂けます。日本のコンセントに合った形状のコネクターを装着してご使用ください。





動作環境

- OS : Mac OS10.6.8 以降対応
(OS10.9 Mavericks 対応)
- Windows 7 & 8 対応
- スペック : Intel CPU、1GB RAM 以上

セットアップ

1. ドライバー&ソフトウェアをインストールする

以下の手順に従ってソフトウェアのインストールを行ってください。

web から最新ソフトウェアをダウンロードして下さい。ダウンロードしたインストーラーを開き、画面に従ってインストールを進めてください。インストール完了後、コンピューターを再起動してください。

ダウンロード URL: <https://audient.com/products/audio-interfaces/id22/downloads/>

Macintosh の場合

web から最新インストーラ (.dmg) をダウンロードしてください。

ダウンロードしたインストーラを開き、画面に従ってインストール (アプリケーションのフォルダーに移動) を進めてください。

インストール完了後は、コンピューターを再起動してください。

同梱の USB ケーブルで、iD22 をコンピューターに接続してください。

付属のアダプターを電源に接続して iD22 に電源を供給しまでください。



Windows の場合

web から最新インストーラ (.zip) をダウンロードしてください。

ダウンロードしたファイルをダブルクリックして展開してください。

フォルダに含まれているインストーラ (setup.exe) を開き、画面に従ってインストールを進めてください。

インストールが完了したら、同梱の USB ケーブルで、iD22 をコンピューターに接続してください。付属のアダプターを電源に接続して iD22 に電源を供給しまでください。

ハードウェアの認識が自動的に開始されます。



セットアップ

2. iD22 とコンピューターを接続する

同梱のUSBケーブルで、iD22をコンピューターに接続して下さい。その後、付属のアダプターを電源に接続してiD22に電源を供給します。

3. ステータスLED

接続が完了すると、“STATUS” LEDが緑色に数秒点滅します。

コンピューターとのコネクションが安定するとLEDは点滅が止まり、「正常動作中」を示す点灯状態に変わります。



「iD ミキサー」ソフトウェアは、このLED点灯中に起動することができます。

LEDが点滅を始めた場合、何らかの問題が発生しています。

まず、コンピューターとの接続を確認してください。



4. 接続の確認方法

下記のフォルダーにて、コンピューターが正常にiD22を認識しているかを確認することができます。

【Macintoshの場合】

Macintosh HD > Applications > System Preferences

【Windowsの場合】

スタートメニュー > コントロールパネル > ハードウェアとサウンド > サウンド

iD22がI/Oデバイスとして設定されているかを確認します。

また、「[Audio MIDI のセットアップ\(Mac\)](#)」「[コントロールパネル\(Win\)](#)」をチェックすることで詳細を確認できます。

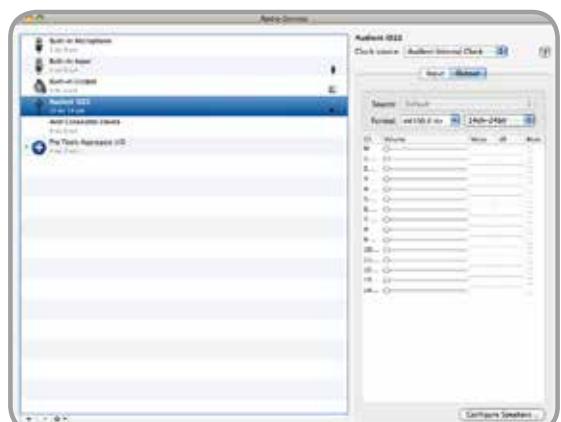
【Macintoshの場合】

Mac HD > Applications > Utilities

【Windowsの場合】

スタートメニュー > コントロールパネル > ハードウェアとサウンド > サウンド

Macintoshでは、下記のフォルダーにて、10入力／14出力のレポートを確認できます。ADAT入力から外部クロックを受けている場合以外は、クロックソースをiD22に設定してください。



【Macintoshの場合】

Window > Show Audio Window

セットアップ

5. 「iD ミキサー」アプリケーションの起動

「iD ミキサー」ソフトウェアは、以下のフォルダーに保存されています。

(Macintosh でドックに表示されていない場合は、ドラッグしてコピーしてください。)

【Macintosh の場合】

Macintosh HD > Applications > iD22

【Windows の場合】

スタートメニュー > Audient > iD22 Mixer

C: > Program Files > Audient > USBAudioDriver

「iD22 Mixer」は、iD22 が接続されている時のみ使用可能です。右クリックすると iD22 の終了、レインシーや ASIO のバッファー設定を行う事ができます。



6. 最新ファームウェアの確認

定期的にファームウェアの更新状況をチェックすることを勧めます。新規にインストールする場合は、サイトで最新版のリリースを確認してください。

コンピューターがインターネットの接続されている場合、ファームウェアの更新を「iD ミキサー」からも行うことが可能です。



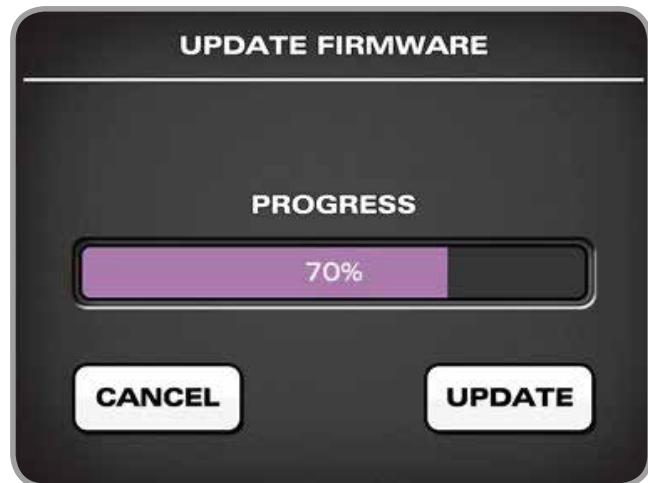
7. ファームウェアのアップデート

ファームウェアのアップデート方法は 2 通りあります。

- メニューの「From file」から、ディスク上に保存された最新ファームウェアのファイルを使用する。
- 「iD ミキサー」ソフトウェア上から更新情報を確認し、直接アップデートする。



「iD ミキサー」上で更新情報を確認すると、最新バージョンが図のように表示されます。NEXT をクリックするとアップデートが続行されます。続く画面で UPDATE をクリックし、アップデートが完了したらウィンドウを閉じます。



マイク入力 (プリアンプ) & ライン入力 (MIC / LINE 1~2)

iD22 の両アナログ入力には、Audient コンソール直系のマイクプリアンプが搭載されています。

8段のトランジスター、ディスクリートクラス A 回路を採用し、低ノイズで極めて歪みの少ないサウンドを生み出します。音質的には、スピード感に溢れ、さらにオープンで正確なディテイルが特徴です。

全てのアナログ回路は +/-15V (30V レール) で駆動しており、他のオーディオ・インターフェースとは比較にならないヘッドルームと迫力あるサウンドを実現しました。

マイクプリアンプの仕様

- 60dB のクリーン・ゲイン
- 48V ファンタム電源 (チャンネル毎 / 10mA)
- >3k Ω 入力インピーダンス
マイクの種類に関わらず、パンチのあるサウンドが得られるインピーダンスに設定しました。
- -10dB パッド: 入力ヘッドルームのシーリングを高めます。
- 位相反転スイッチ: 複数のマイクを使用する場合には、必ず位相チェックをお勧めします。
- ハイパス・フィルター (100Hz 固定)
- 12dB / オクターブのフィルターで余分な低域をカットします。



ノイトリック社製コンポ・ジャック

入力端子にはマイク / ラインどちらにも対応できるように、Neutrik 製の XLR / TRS コンポ・ジャックを採用しました。

ライン信号もパッドされて (信号レベルを下げる) マイク・プリアンプ回路を経由します。パッド、位相、ハイパス・フィルターの各機能も使用できます。この設計は広いレンジの入力信号をオーバーロードすることなくアナログ入力することが可能になります。



楽器入力 (D.I.)

「D.I.」入力端子は、JFETベースのクラス A / ディスクリート・デザインの楽器用入力です。

この TS (アンバランスチップ、スリーブ) ジャックに接続すると、チャンネル 2 が楽器入力になります。この入力はマイク / ライン入力よりも優先され、チャンネルの -10dB パッド、位相反転スイッチ、ハイパス・フィルターを経由してから出力されます。-10dB パッドは、アクティブのピックアップを搭載した楽器やシンセサイザー、ドラムマシーンなど、レベルが大きい楽器接続用です。また、位相反転スイッチはマイクを併用する時に、ハイパス・フィルターは余計な低域をカットするのに使用します。

バランス (SEND / RET 1 ~ 2)

マイクプリアンプ回路を経由した入力信号は、インサートの SEND (センド) に送られます。

センド / リターン共にバランス入出力回路で、各チャンネルにそれぞれ独立して用意されています。コンプレッサーや EQ をインサート接続して、入力信号を整える事ができます。

インサートを使用しない時、この入出力回路は直接接続されます。センド / リターンをパッチ接続する必要はありません。

インサート接続

iD22 の SEND (センド) と外部機器 (コンプレッサー等) の入力を接続し、外部機器の出力と iD22 の RET (リターン) を接続してください。



インサート接続

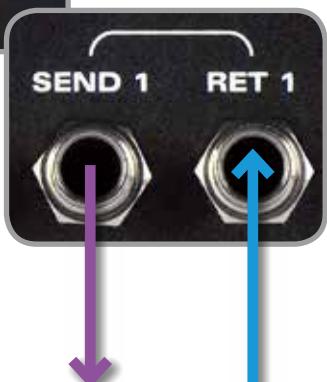
iD22 の SEND (センド) と外部機器 (コンプレッサー等) の入力を接続し、外部機器の出力と iD22 の RET (リターン) を接続してください。

iD22 Microphone

Preamplifier



Insert
Send



Processing Chain

AD コンバーターへのダイレクト接続

RET (リターン) 端子に入力された信号は、ダイレクトに AD コンバーター回路に入力されます。

信号経路によるサウンドへの色づけがない純粋な AD コンバーター入力です。

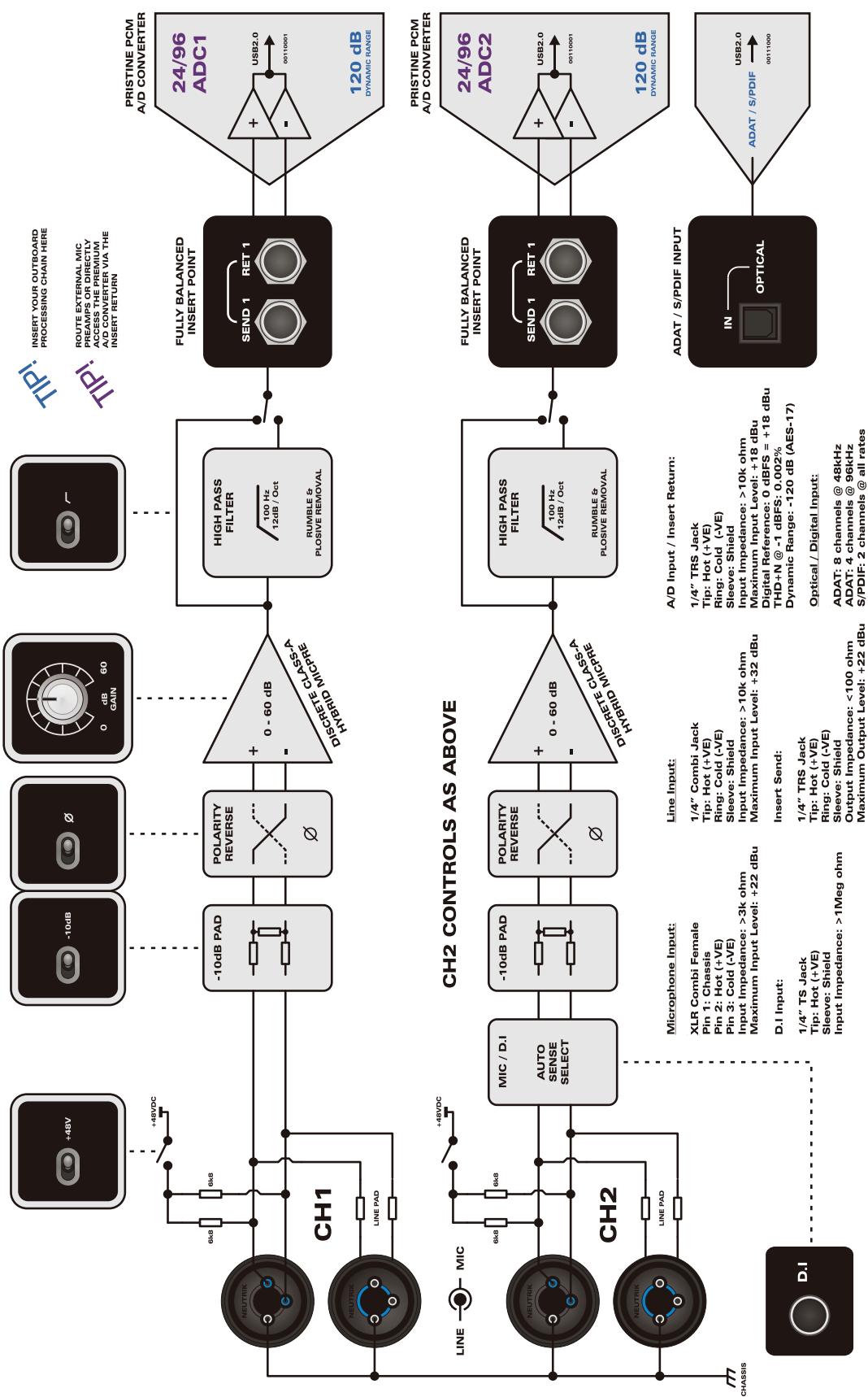
キャリブレーションのレベル : 0dBFS = +18dBu

他のマイクプリアンプや外部アウトボードを使用する場合には、この端子から DAW へ信号入力することをお勧めします。

2 ミックスを 3 OUT 4 から出力してコンプレッサーを経由しリターンに戻す、バス・コンプレッションのような使い方も可能です。

Insert Returns =
Line Level ADC Inputs





Class-A Mic Preamplifiers, Inserts, A/D Converter & Optical Input Block Diagram

アサイン可能なライン出力と DAC

iD22 には合計 4 つのアサインできる出力端子があります。出力アサインは、「iD ミキサー」のソフトウェア上で、トラッキングやミックス時の目的に応じて設定可能です。

下図は、ソフトウェア上の出力アサイン画面です。各出力へのアサインは以下から選択することができます。

- 「iD ミキサー」のメイン出力
- cue 出力 (A / B)
- ALT スピーカー出力
- DAW 出力 (入力信号をパラレルで DA コンバーターへ送り、iD の DSP ミキサーをバイパスします。)

一般的な出力ルーティング

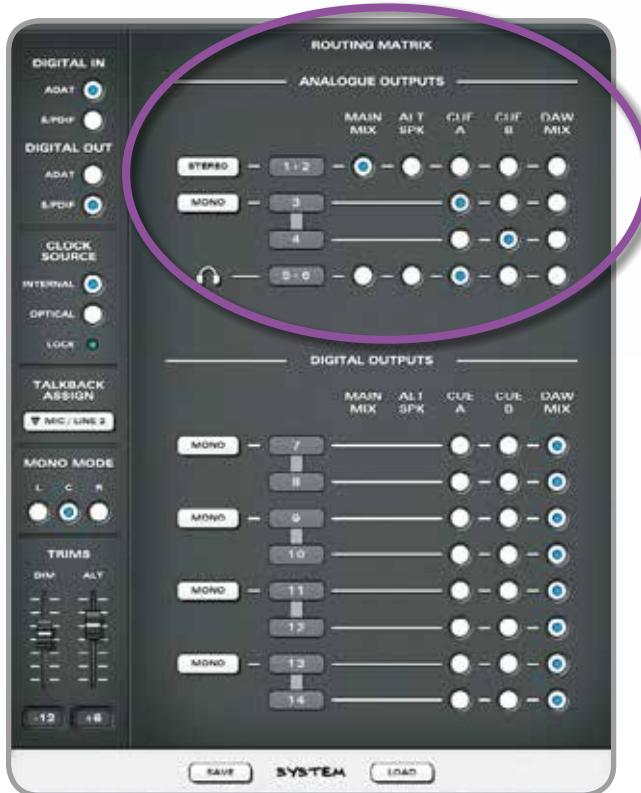
トラッキングにおいては、一般的にエンジニア用とプレイヤー用の 2 種類のミックスを用意します。その場合、出力 1 ~ 2 にはエンジニア用に Main Mix をアサインしモニター・スピーカーに送ります。

出力 3 ~ 4 はプレイヤー用の cue ミックス (A / B) としてアサインし、それをプレイヤーのヘッドフォン・モニター用ミキサー等へ、モノまたはステレオで送ります。

iD22 のヘッドフォン出力はエンジニア用に追加のモニター出力として使用したり、異なる cue ミックスとしてアーティスト用に使うこともあります。

DAW から全てヘッドフォンミックスのバランスを取りたい場合 (低バッファー・サイズで低いレイテンシーに保ちたい場合)、アサイン画面で出力 3+4 や 5+6 を DAW MIX に設定して、「iD ミキサー」の DSP ミキサーを経由しない様にします。

ミキシングでは出力 1+2 をメインミックスのモニター設定し、3+4 をモニタースピーカー用に、5+6 をヘッドフォンにする使い方が一般的です。



DAC / ライン出力のルーティング

iD22 の各出力は、以下のように使用できます。

全てのライン出力はバランス出力で、Audient の大型コンソール ASP8024 と同様の回路デザインが採用されています。

- 充分な出力レベル (>18dBu)
- 低ノイズ
- <100 Ωのバランス出力

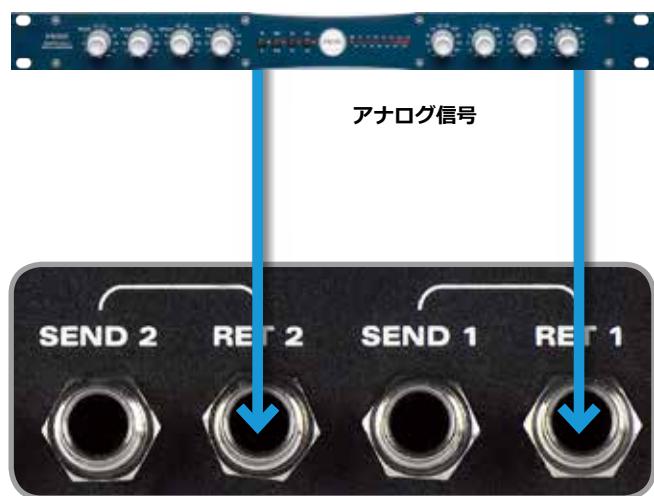
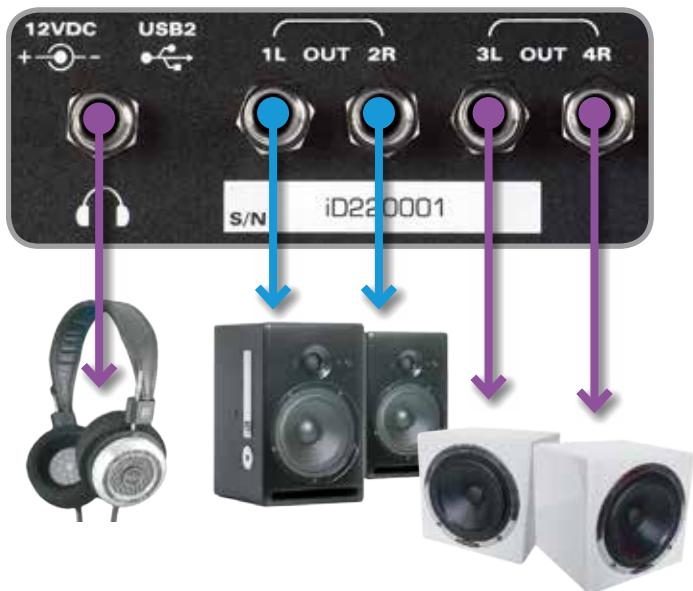
iD22 をモニタリングとトラッキングで使用する場合



iD22 を外部ハードウェアと接続する場合



iD22 に複数のモニター機器を接続し切り替える場合



「iD ミキサー」のルーティング例

iD22 をモニター&トラッキングで使用する場合

- 出力 1+2 (STEREO) : MAIN MIX
- 出力 3 (MONO) : CUE A (ヘッドフォン Lch)
- 出力 4 (MONO) : CUE B (ヘッドフォン Rch)
- 出力 5+6 (ヘッドフォン) : Cue A



DAW のヘッドフォン・ミックスを iD22 の出力 3+4 に送る場合 (ITB ヘッドフォン・ミックス)

- 出力 1+2 (STEREO) : MAIN MIX
- 出力 3+4 (STEREO) : DAW MIX (ITB ヘッドフォン)
- 出力 5+6 (ヘッドフォン) : MAIN MIX (エンジニア用)



モニターを複数接続して切り替える場合

- 出力 1+2 (STEREO) : MAIN MIX
- 出力 3+4 (STEREO) : ALT SPX (切替え用スピーカー用)
- 出力 5+6 (ヘッドフォン) : MAIN MIX (リファレンス用)



「iD ミキサー」やモニター・コントローラーを経由せず、アウトボードへ出力する場合 (ITB ヘッドフォン・ミックス)

- 出力 1+2 (STEREO) : DAW MIX (ダイレクト出力)
- 出力 3+4 (STEREO) : DAW MIX (アウトボードと接続)
- 出力 5+6 (ヘッドフォン) : MAIN MIX (リファレンス用)
※アウトボードからリターン端子に接続。



ヘッドフォン出力

接続するヘッドフォンのインピーダンスの影響を受けにくい、ディスクリート高電流型ヘッドフォン・アンプを搭載しました。ヘッドフォン出力用に独立した DAC を設け、非常に高い音質を確保しています。

ヘッドフォン出力へ送る音声は、「iD ミキサー」のソフトウェア上でアサインします。

iD22 本体には、ヘッドフォン出力をコントロールするための専用ノブが搭載されており、エンジニアのリファレンスやレコーディングするミュージシャンのモニター以外にも、Y字ケーブルを使用してスピーカー接続として使用することも可能です。

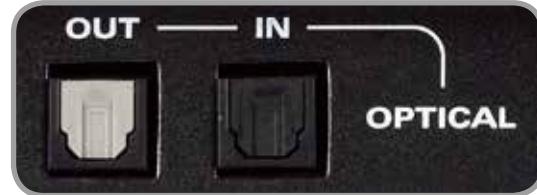
デジタル入出力

iD22 には、オプティカルのデジタル入出力が搭載されています。このデジタル端子は ADAT (8ch) と SPDIF (2ch) どちらにでも使用可能で、切替えは「iD ミキサー」のソフトウェアから行えます。

両フォーマットでも最大サンプルレートは 96kHz です。ADAT は 44.1 / 48kHz 以外で使用する場合は、使用可能チャンネル数が 4 チャンネルに減ります。

8ch マイクプリアンプ (Audient ASP008TM 等) を ADAT 接続すると、合計 10ch の入力が可能になります。

また、ADAT 出力から 8ch のヘッドフォン・アンプや DA コンバーターに接続して、モニタリング機能を拡張することもできます。



モニターコントロール

iD22 は Audient の大型コンソールと同等のモニタリング・コントロール機能を搭載しています。各モニターの音量は、iD22 本体のカスタムアルミ製のボリューム・コントローラー (MONITOR) で操作できます。

ボリュームレベルの設定値による音質変化やステレオ・イメージの「ふらつき」は全く無く、どのポジションでも非常に安定したモニタリングを提供します。

DIM と CUT のスイッチは、ボリュームと連動した機能です。DIM の減衰レベルや ALT 出力の音量トリムは、「iD ミキサー」のソフトウェア上で設定します。

3 つのファンクション・キーを、モニターコントロール用の機能にアサインする事も可能です。例えば、ALT 出力の切替えをファンクション・キーにアサインすれば、スイッチ 1 つでモニターの切替えが可能になります。

モニターコントロールの特徴

- ボリュームのコントロール (100% ステレオ・マッチング)
- 独立した出力レベルが設定可能な ALT 出力 (ファンクション・キーにアサインできます。)
- DIM (減衰レベルの設定が可能)
- CUT
- Mono Sum (ファンクション・キーにアサイン可能)
- 位相反転 (ファンクション・キーにアサイン可能)
- トーカバック (ファンクション・キーにアサイン可能)

Mono Sum や位相反転を使用すると、ステレオのチャンネルをモノラルで合算出力した時のサウンドの試聴や、お気に入りの音源で使用されている空間的なトリックを確認できます。



メーター

4段 LED メーターが搭載されています。このピークメーターは、信号レベルの表示がデジタル・レコーディング用に合わせてあります。

iD22 は 0dBu 信号レベルを -18dBFS の表示レベルとして換算しています。言い換えると 0dBFS に表示された時の信号レベルは +18dBu です。

ユーザーは、DAW 側のメーターでレコーディングの信号レベルを確認してください。

この LED メーターは、「iD ミキサー」ソフトウェア上のメイン・ミックス・バスのメーターと同じ出力レベルを表示しています。

ステータス LED

STATUS の LED は、iD22 とコンピューターの USB 接続状態を表示します。



スイッチ動作

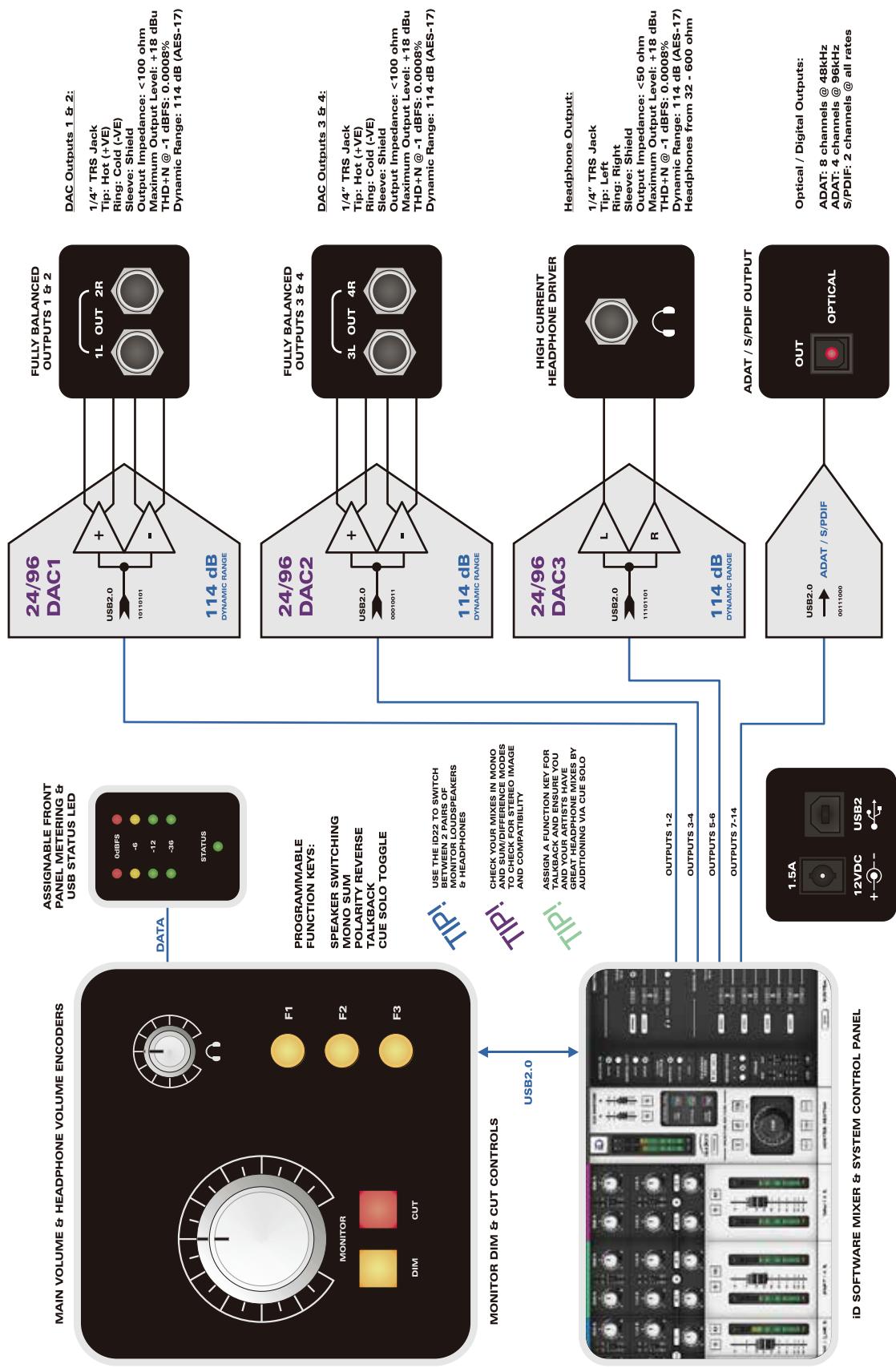
DIM や CUT 等のスイッチは、押す長さによって動作が異なります。

- スイッチを長押しする。: モメンタリー
(押している間だけ有効)
- スイッチを押し、瞬時に離す。: ラッチ
(押すたびに切り替わる)

Kensington ロック

iD22 の側面には Kensington ロック取付け用の穴があります。学校や設備で使用する際の盗難防止に活用できます。





High Performance D/A Converters, High Current Headphone Amplifier & Optical Output Block Diagram

入力チャンネル（チャンネルの種類）

「iD ミキサー」で各チャンネルに、3 種類の入力から選択できます。入力の種類によって、チャンネル上部のカラーコードが異なります。

- アナログ入力（入力 1～2）： 青
- デジタル入力（SPDIF、ADAT）： 緑
- DAW ミックス（プレイバック 1～6）： 紫



アナログ入力とは、インサートのリターンからの信号等で、AD コンバーターを通過した信号です。「マイク入力」「ライン入力」「ch2 の D.I」「インサートのリターン」へ入力された信号です。

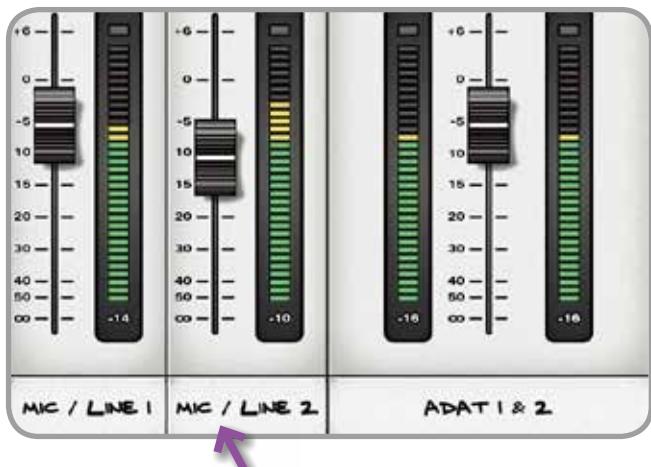
デジタル入力とは、SPDIF (2ch) または ADAT (最大 8ch) へ入力された信号です。

DAW ミックスとは、3 組のステレオペアの DAW 中にあるバーチャル・ミックスです。

これらのミックスは、DSP ミキサー上、cue ミックス又は DA コンバーターを通過した信号として出力端子からモニターすることができます。DAW の出力をこれらのミックスに設定すると DAW の音声が送られます。

また、「iD ミキサー」では全てのミックスを合わせて、ミックス・バスでモニターすることもできます。

大型コンソールにトラック名をテーピングする様に、各チャンネルに名前を付けることができます。



MIC/LINE 1 or KICK for example

チャンネル・ストリップのコントロール

※ Alt + クリックで全てクリアされます。



CUE A センド

Level (0 dB ~オフ)
Pan (ステレオ使用時)

CUE B センド

Level (0 dB ~オフ)
Pan (ステレオ使用時)

パラメーター表示ボックス

通常は PAN の設定値が表示されています。チャンネルのコントロールにマウスを重ねると、そのパラメーター設定値が表示されます。

S**M**

ソロ (S) & カット (C)

チャンネルのソロ (S) とカット (C) をオン／オフします。
ラッチ仕様ですから、クリックする度にオン／オフが切り替わります。

※既にソロ状態のトラックがある時、別のトラックの「ソロ(S)」にマウスを合わせ Command (⌘) + クリックで最初のトラックソロが解除され、クリック後のトラックがソロ状態になります。

※ソロ状態のトラックの「ソロ (S)」にマウスを合わせ Command (⌘) + クリックすると、全てのトラックのソロが解除されます。

チャンネルフェーダー

範囲 : +6dB ~オフ

チャンネルメーター

レンジは 66dB です。
ピークホールド機能により、一度信号がピークに達するとピーク表示が点灯し続けます。ピーク表示をクリックすると、ピーク情報の表示がリセットされます。

MIC / LINE

チャンネルラベル

各チャンネルに 8 文字の名前を付けることができます。

ステレオ・リンク

全てのチャンネルがステレオ・リンク可能です。

レベルのコントロールは1つになりますが、PANは両チャンネルとも定位の設定は可能です。

設定、コントロール機能は以下の通りです。



リンクされていない場合

- 各レベルのコントロール
- 各 PAN

リンクされている場合

- 共通のレベルのコントロール
- 各 PAN

便利な機能

- 「iDミキサー」上で全てのコントロールは、マウス操作時に目視しやすいように色が変ります。
- 全てのコントロールは、マウスのスクロール・ホイールに対応しています。



マスター・セクション

メイン・メーター

レンジは 66dB です。

iD22 中の DSP ミックス・バスの出力レベルを表示します。本体の LED メーターは、それと同じレベルを表示します。

メーターのキャリブレーション

0 ~ 6dBFS : 1dB ステップ

-8 ~ -56dBFS : 2dB ステップ

ピークホールド機能により、一度信号がピークに達するとピーク表示が点灯し続けます。ピーク表示をクリックすると、ピーク情報の表示がリセットされます。

Alt + クリックで全てクリアされます。

システムパネルボタン

クリックすると、iD22 のセットアップとルーティングマトリクスが表示されます。

Mono Sum ボタン

iD22 の DSP ミキサー出力を、L&R を合わせたモノラル音声にします。この機能はファンクション・スイッチに割り当てる事ができます。スイッチの上で右クリックをして、F1 ~ F3 のいずれかを選択してください。

位相反転ボタン

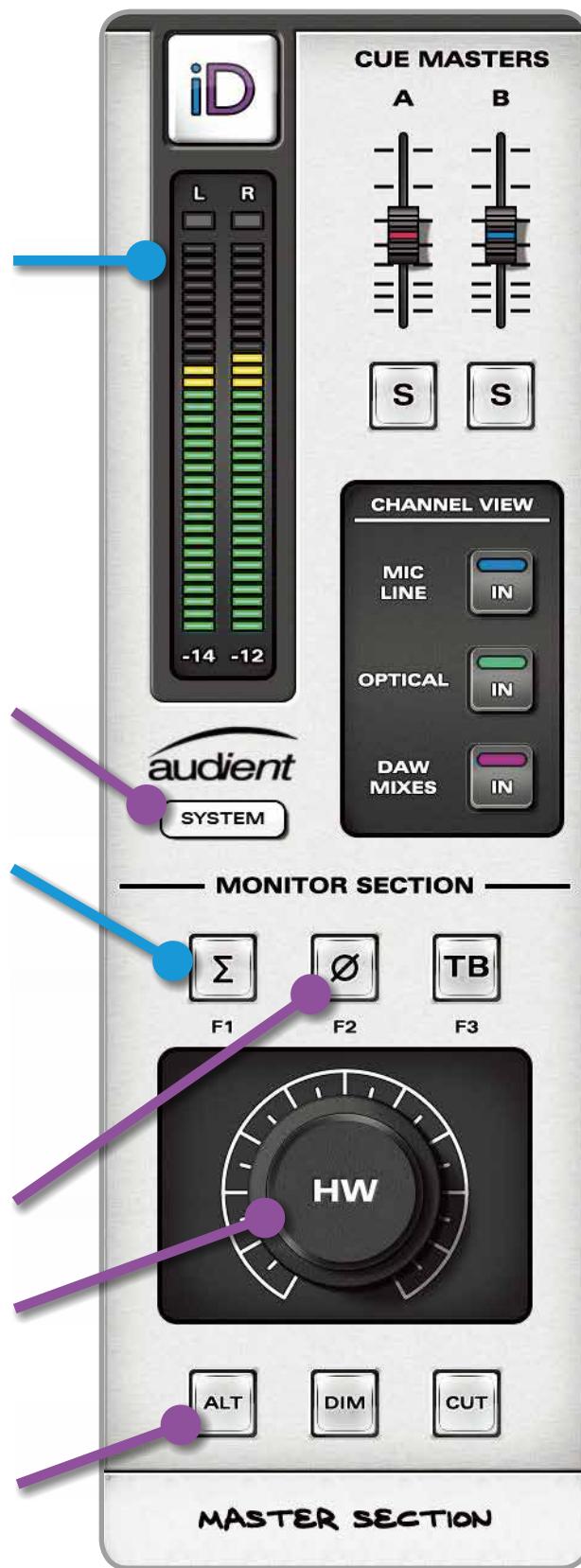
ステレオ音声の片チャンネルの位相(左チャンネル)を反転させます。この機能はファンクション・スイッチに割り当てる事ができます。スイッチの上で右クリックして、F1 ~ F3 のいずれかを選択してください。

ハードウェア音量

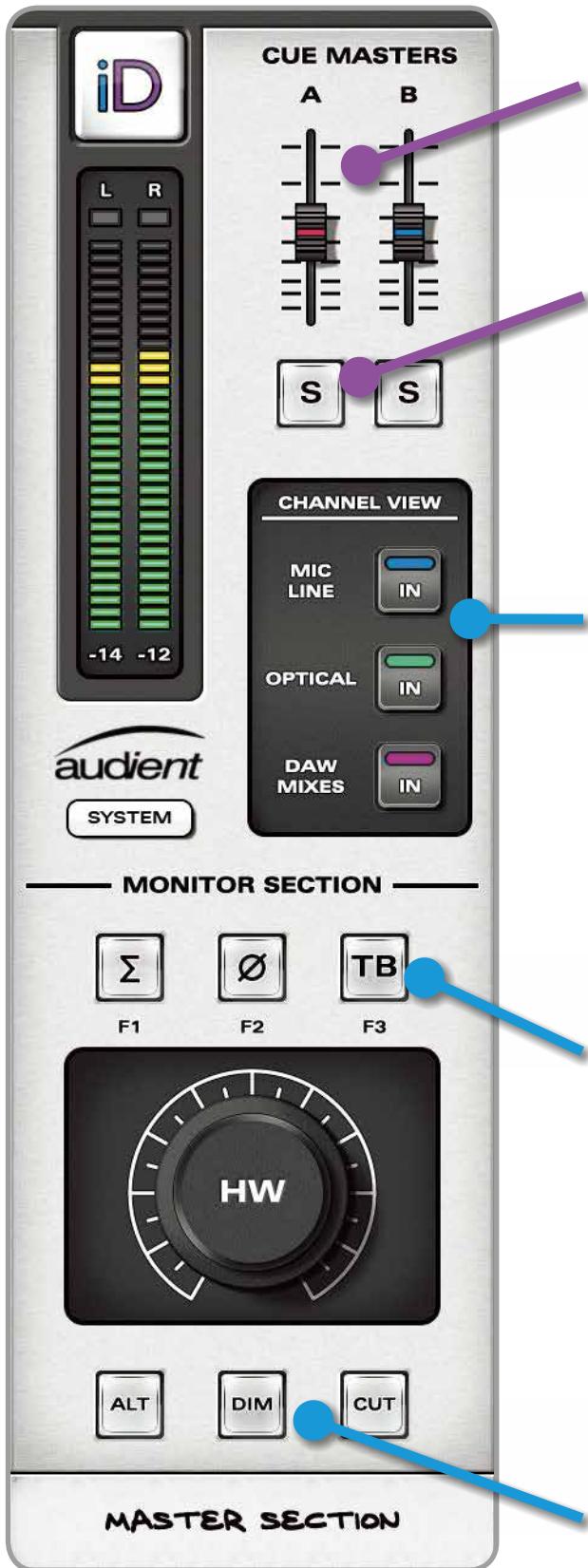
出力音量を調整します。

Alt (スピーカー出力切替え)

出力 1 + 2 と 3 + 4 を切替えます。モニタースピーカーを複数ペア接続している場合に便利な機能です。この機能はファンクション・スイッチに割り当てる事ができます。スイッチの上で右クリックをして、F1 ~ F3 のいずれかを選択してください。



マスター・セクション



Cue マスター (A / B) の音量

Cue の音量を調整します。
範囲 : 0dB ~オフ

Cue マスター (A / B) のソロ

オンにした Cue ミックスをソロで聞くことができます。
※ 1つずつオンにする事ができます。

チャンネル表示ボタン

使用チャンネルのレイアウト・カスタマイズが可能です。

- デジタル入出力を使用していない場合:
OPTICAL をオフにすると「デジタル入力」がミキサー上から消えます。
- 画面を最小サイズで表示したい場合:
DAW MIXING をオフにすると、「DAW ミックス」がミキサー上から消え、画面の大半が隠れます。

トークバックボタン

このスイッチがオンの時、トークバックにアサインされた入力信号が cue A / B と DAW に送られます。音量は、トークバックとして使用するチャンネルの cue センド・レベルで設定します。

モニターの DIM と CUT ボタン

DIM オンの減衰レベルは、「iD ミキサー」上で設定します。トークバックをオンにすると、DIM も自動的にオンになります。

チャンネル表示

下図は「アナログ入力」+「DAWミックス」で構成されています。オプティカルのデジタル端子を使用しないでレコーディングを行う場合、このようなレイアウトを推奨します。



ボリュームコントロール

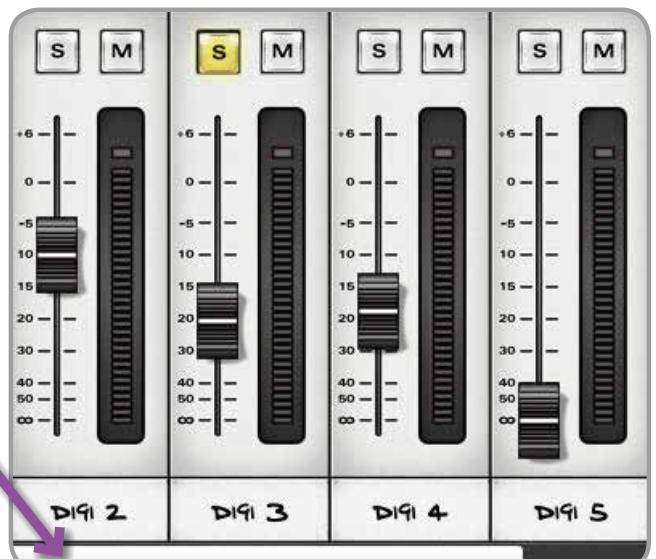
出カーメーターに表示されているのは、「iDミキサー」DSPミックス・バスの出力レベルです。この信号がルーティング画面の「MAIN MIX」にルーティングされ、本機の出力端子に送られます。

この出力が、モニタースピーカー等に送られるメイン出力になります。出力はiD22本体のボリューム・ノブでコントロールします。



出力のみ使用する場合にはマスター・セクションのみを表示したり、デジタル入力を使用する場合には全ての入力チャンネルを表示したり、様々な表示方法があります。

表示チャンネルが10を超える場合には、画面下部にスクロールバーが表示されます。



表示モード変更の切替えショートカット一覧

- Command + 1 :「アナログ入力」を表示
- Command + 2 :「デジタル入力」を表示
- Command + 3 :「DAWミックス」を表示
- Command + 4 :システムパネルを表示

F ファンクション・スイッチ

本機のファンクション・スイッチには、様々な機能を割り当てるすることができます。

「iD ミキサー」上でこのスイッチに割り当てる機能を右クリックし、スイッチ番号（F1～F3）を選択します。

Σ Mono Sum (モノサム)

このスイッチをオンになると、ステレオ信号をモノラル信号にして出力します。ネット配信やコンピューター用の音源をミックスする時に便利な機能です。

\ominus 位相反転

このスイッチをオンになると、ステレオ信号の L チャンネルの位相が反転します。

Mono Sum と組み合わせると、モノラル信号が「L+R」ではなく「L-R」になるため、センターの定位の音がキャンセルされます。

リバーブの要素だけを聴きたい時や、ミックスに埋もれた信号を探すのに便利な機能です。

TB トークバック

P.26 の項目を参照ください。



ALT スピーカー出力切替え

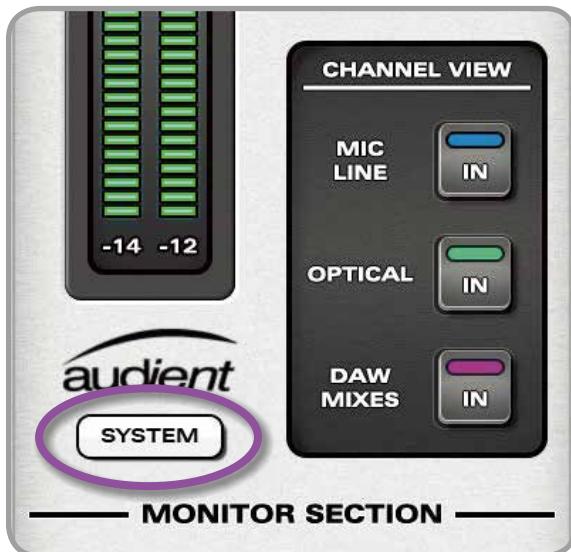
出力 1 + 2 と他の出力との切替えを行います。この機能を使うためには、「iD ミキサー」上でメイン出力を 2 つの出力にルーティングする必要があります。

2 つ目の出力にデジタル出力 (SPDIF or ADAT)、又はアナログ出力 (出力 3 + 4 or 5 + 6) を設定します。出力を 5 + 6 にアサインした場合、ヘッドフォン出力のオン／オフとしても機能します。

最も一般的なのは、出力 1 + 2 と 3 + 4 にそれぞれスピーカーを 1 組ずつ接続し、切り替える方法です。

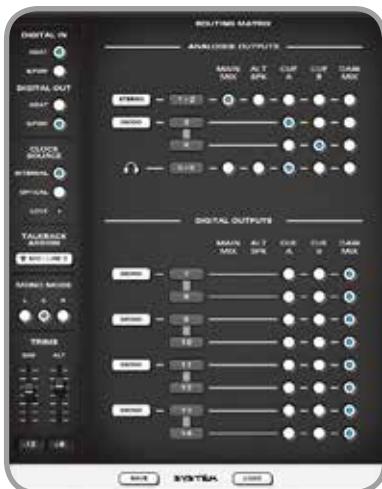
システムパネル

マスター・セクションにある「SYSTEM」をクリックすると、システムパネルが表示されます。Command + 4 でも同じように行えます。



システム・パネルには、以下の設定画面が含まれます。

- セットアップ画面
- ルーティング設定



セットアップ画面

デジタル入力のフォーマット

デジタル入力（オプティカル）のフォーマットを設定します。

- ADAT (44.1 ~ 48kHz の場合は 8ch / 88.2kHz ~ 96kHz の場合は 4ch)
- SPDIF (2ch)

デジタル出力のフォーマット

デジタル出力（オプティカル）のフォーマットを設定します。

- ADAT (44.1 ~ 48kHz の場合は 8ch / 88.2kHz ~ 96kHz の場合は 4ch)
- SPDIF (2ch)

クロックソース

クロックのソースを「内部クロック (INTERNAL)」と「外部のクロック (OPTICAL)」から選択します。

使用する DAW セッションとサンプルレートを一致させることが必須です。

ロック LED

外部クロックと正常にロック（同期）を表示します。

緑色が正常です。赤色の場合には、問題が発生しているので接続や設定を確認してください。

トークバックの設定

トークバック入力を設定します。全ての入力が選択可能です。

トークバックの音声は cue にのみ送られるため、ループによるフィードバックが起る心配はありません。

Mono モード

Mono Sum をオンにした時の、スピーカーの定位を設定します。

- L or R: 選択した側のスピーカーのみ鳴らします。
- C: 2台のスピーカーで、擬似的なモノラルをセンター定位で再生します。

DIM と ALT のトリムコントロール

- DIM のレベル設定範囲: 0 ~ -30 dB
- ALT のレベル設定範囲: +／- 15dB



トークバックのアサイン

トークバックにアサインされたチャンネルは、「iD ミキサー」上のチャンネル名が「TALK BACK」に自動的に変更され、コントロールもトークバック用に変更されます。



トークバックとして使用可能なチャンネルは、「TALKBACK ASSIGN」のプルダウン・メニューに表示されます。

iD22 本体には、トークバック用のマイクが内蔵されていません。入力 1 をレコーディングで使用している場合、使用していない入力 2 をトークバック用に使用してください。

グースネックマイクを接続する

入力 1 ~ 2 のいずれかが空いている場合、トークバック用にグースネックマイクを使用すると、ボーカリストやドラマーとコミュニケーションしやすく便利です



トークバックのチャンネル設定

いずれかの入力チャンネルがトークバックに設定されると、チャンネル名とコントロールがトークバック仕様に自動変更され、トークバック信号を送る Cue A / B のレベルと PAN がコントロール可能になります。

そのチャンネル「パラメーター情報」には、どの入力がトークバックに使用されているかが表示されます。

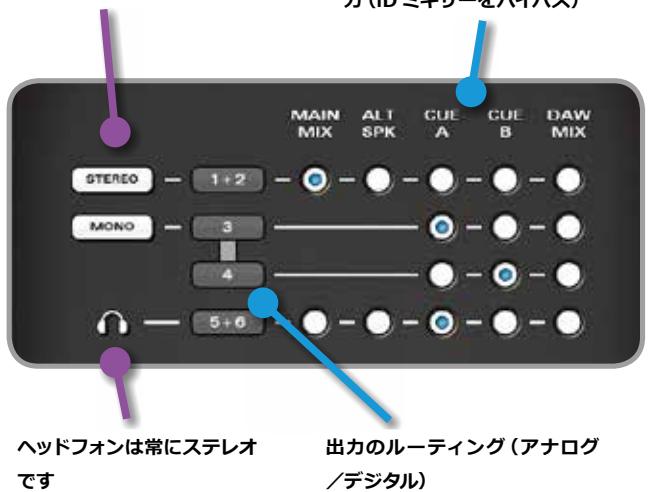
トークバックのオン／オフは、「iD ミキサー」画面上の「TB」スイッチで行います。本体のファンクション・スイッチに割り当てて操作することも可能です。



出力ルーティング

ルーティング画面で、「iD ミキサー」の各出力を、どの DAC 出力（1～6）、又はデジタル出力（ADAT／SPDIF）にルーティングするかを決めます。

ステレオ／モノラル切替スイッチ



図では、DAC 出力 1 + 2 がメイン出力としてアナログ出力 1 + 2 にルーティングされています。つまり、メインのミックスを、アナログ出力 1 + 2 に接続したモニタースピーカーから聞くことができます。これがデフォルト設定です。

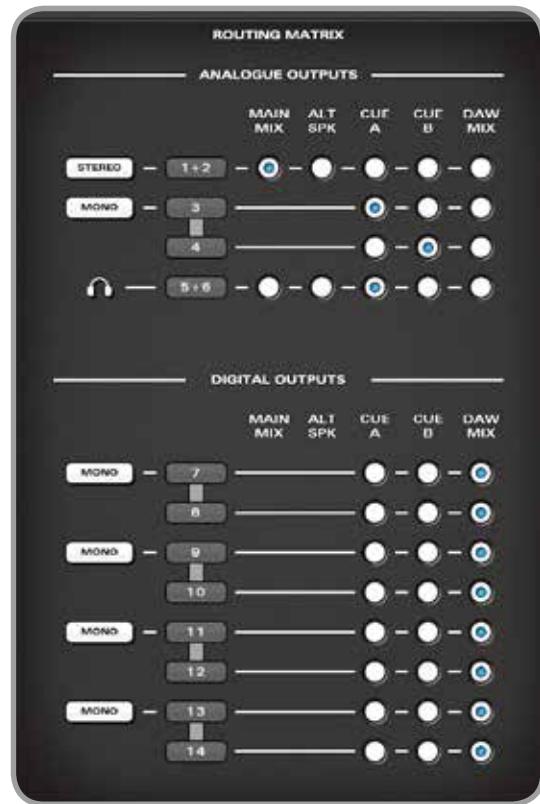
このメイン出力からの信号は、全てのモニター・コントロール機能（mono sum、位相反転、dim、cut、ボリューム）を通過します。

DAC 出力 3 + 4 は、2つのモノラル信号に分けられ、それぞれ Cue A と B に送られています。これは、演者のモニター用に2台のヘッドフォン・アンプを接続する場合に便利です。

この例では cue 信号がモノラルのため、PAN 操作が無効になります。ステレオの cue 信号を送る場合は、図中の「MONO」を「STEREO」に変更します。

ヘッドフォン出力（DAC 5 + 6）や、ALT 出力（DAC3 + 4）へのルーティングもこの画面で行います。この例では、cue A がヘッドフォン出力（DAC 5 + 6）に送られています。

「DAW Mix」を選択すると、「iD ミキサー」の DSP ミキサーをバイパスし、DAW 出力から DAC に直結したルーティングに設定されます。



ミキサープリセットのセーブ&ロード

ミキサーの設定を、プリセットとしてセーブ&ロードする事ができます。

- システム画面の下部にある「SAVE」「LOAD」をクリック。
- キーボードのショートカットを利用する。
- セーブ: Command (⌘) + S
- ロード: Command (⌘) + O

セーブする

プリセットをセーブする時、名前を付ける事が可能です。
システムパネルの「SAVE MIXER CONFIGURATION」にある名前のボックスをダブルクリックして、プリセット名を入力してください。



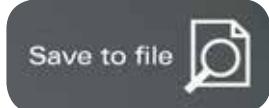
プリセットをセーブする時、名前を付ける事が可能です。
システムパネルの「SAVE MIXER CONFIGURATION」にある名前のボックスをダブルクリックして、プリセット名を入力してください。

デフォルト状態では、下記のフォルダーにプリセットが保存されます。

Mac の場合:

ユーザー > ライブラリ > Application Support > Audient > iD22 > Presets

「Save to file」をクリックすると、保存先や保存名を決定するウィンドウが開きます。名前を付けて、便利なロケーションに保存してください。

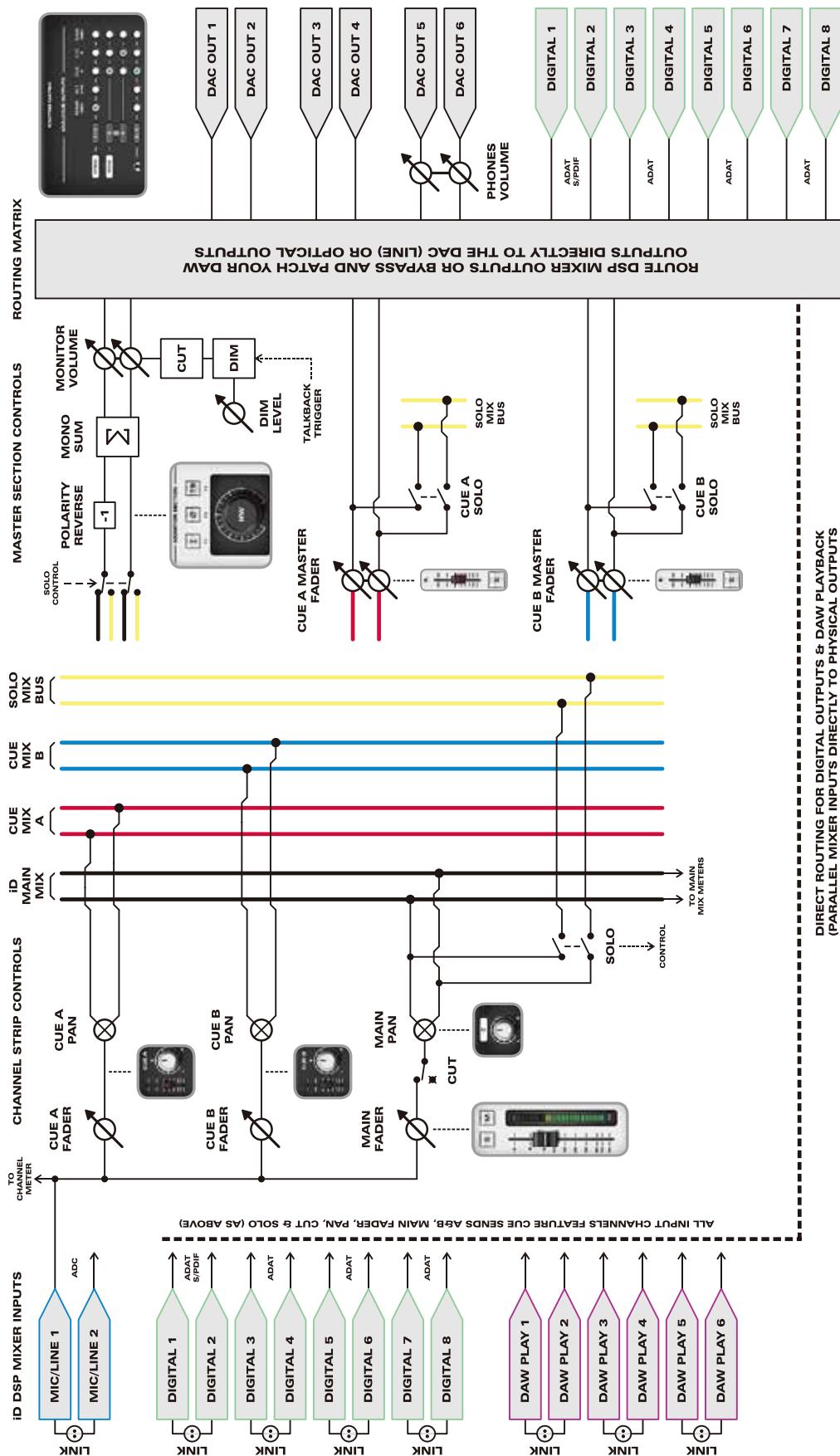


プリセットをロードする場合、システム画面の「LOAD」をクリックしてください。図のように一覧が表示されます。

プリセット名を変更したい場合、プリセット名を1度クリックしてハイライトし、再びクリックしてから名前を入力してください。

プリセットを消去する場合はプリセット名を1度クリックしてハイライトし、画面下の「×」をクリックしてください。





iD22 ONBOARD DSP MIXER APPLICATION BLOCK DIAGRAM

キーボードのショートカット一覧

操作対象	コマンド	詳細
フェーダー	Alt (⌘) + Click	フェーダーをユニティーゲイン (0 dB) にリセット
パン (Pan)	Alt (⌘) + Click	PAN をセンターにリセットします
ソロ (S)	Command (⌘) + Click	ソロ (S) がオンのチャンネルでクリックすると全てのソロが解除されます。ソロがオフのチャンネルでクリックすると、他のソロ (S) がオンのチャンネルをリセットし、選択したチャンネルのみソロがオンにします。
メーター	Meters Alt (⌘) + Click	クリップしたピーク表示のクリアします。
システム画面	Command (⌘) + S	使用中ミキサーの状態をプリセットとしてセーブします。
	Command (⌘) + O	プリセットをロードします。
画面表示	Command (⌘) + 1	「アナログ入力」を表示します。
	Command (⌘) + 2	「デジタル入力」を表示します。
	Command (⌘) + 3	「DAW ミックス」を表示します。
	Command (⌘) + 4	システム画面を表示します。

Pro Tools と使用する場合

iD22 のインストールが完了したら、Pro Tools を起動してサンプルレートの設定をご確認ください。外部クロックを使用する場合、両方のサンプルレートを同一値に設定してください。



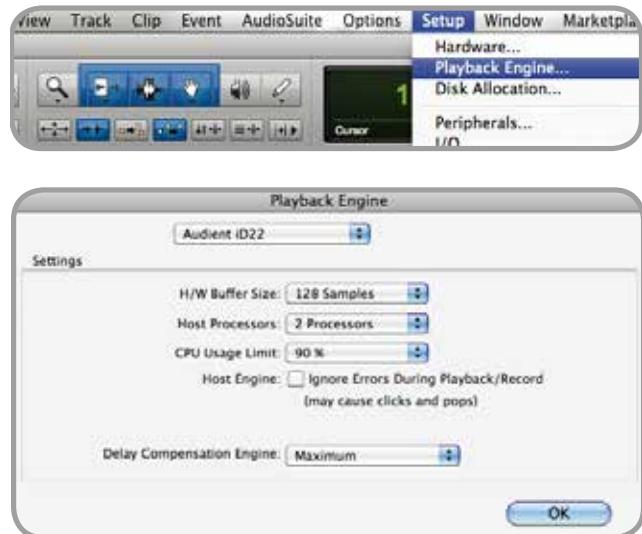
playback エンジン

セットアップから playback エンジンへ進みます。

上記の設定画面で、iD22 が playback 用デバイスとして設定されているか確認してください。バッファーサイズの設定もこの画面で行います。

※ playback 用デバイスを変更した後、Pro Tools は再起動します。

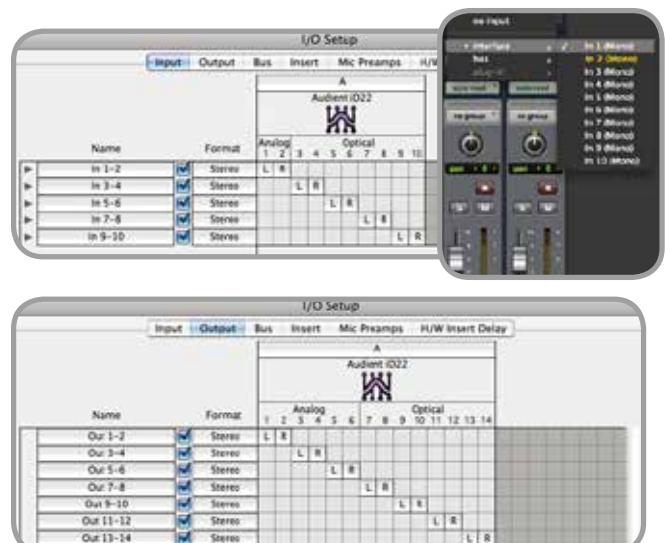
※ 他の設定に関しては、Pro Tools の取扱説明書をご参照ください。



セットアップから I/O へ進みます。

上記設定画面で、入力と出力の設定を行います。iD22 の 10 入力／14 出力が正しくルーティングされているかを確認してください。

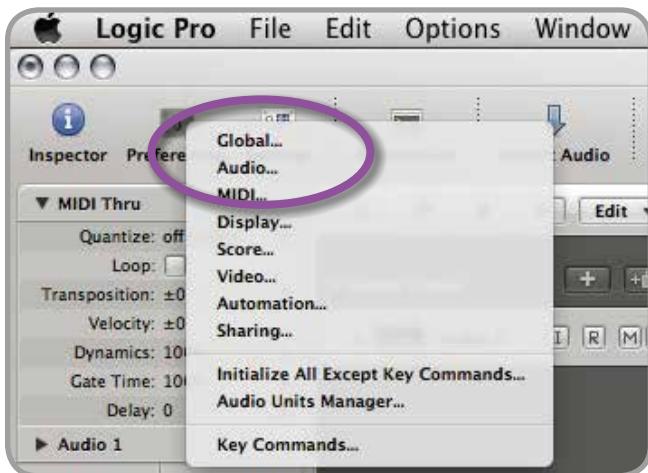
※ 「iD ミキサー」ソフトウェア内で、Pro Tools の出力信号が 1 度バーチャル・チャンネルとして DSP ミキサーを経由するか、直接 DA コンバーターに送られるかを設定することができます。



Logic Pro と使用する場合

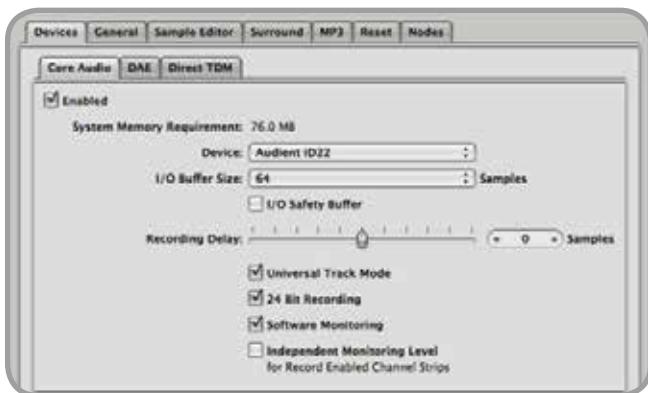
iD22 のインストールが完了したら、下記の設定画面を開いてください。

Logic Pro > Preferences > Audio



iD22 がプレイバック用デバイスとして設定されていることを確認してください。バッファーサイズの設定もこの画面で行います。プレイバックの安定度や CPU への負荷が心配な場合は、バッファーサイズを 256 サンプルに設定してください。

「iD ミキサー」で入力信号をモニターしている場合は、Logic のモニタープレイバック切ってください。音が二重に聴こえます。

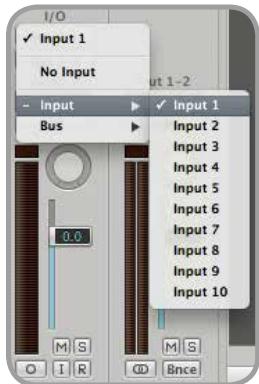


I/O の設定

iD22 の入出力（10 入力／14 出力）は、全て Logic の入出力先として表示されます。

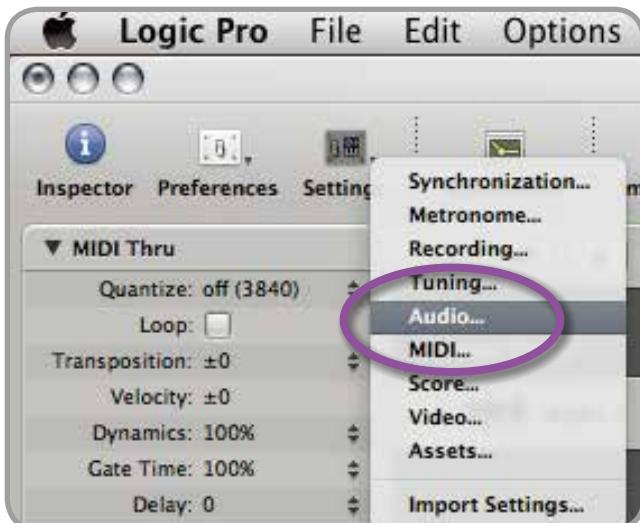
入出力の名前は I/O ラベルの画面で変更することができます。

オプション> オーディオ > I/O ラベル



デジタル外部機器 (ADAT / SPDIF から) をクロック・ソースとして使用する場合は、Logic Pro と iD22 のサンプルレートを同一値に設定します。

プロジェクト設定 > オーディオ > サンプルレート



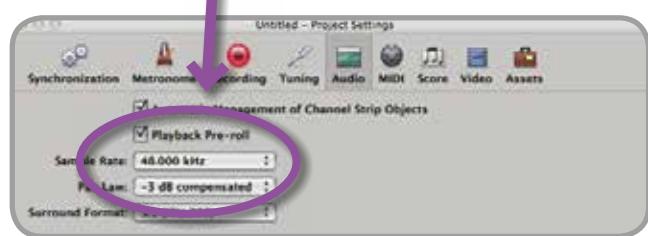
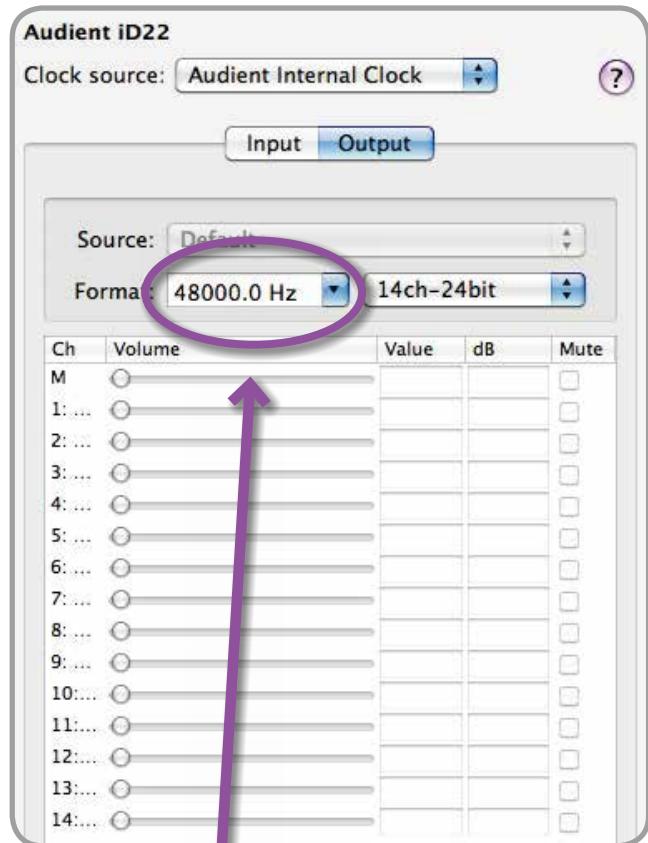
iD22 の内部クロック (INTERNAL) をマスターにする場合は、iD22 のクロック値が Logic Pro のサンプルレート設定に追従して自動変更されます。

クロック変更後、同期するために短い無動作期間がありますが、これは正常です。

これらの設定は、下記の画面で設定することができます。

アプリケーション > ユーティリティ > Audio MIDI 設定

※他の設定に関しては、Logic Pro の取扱説明書をご参照ください。



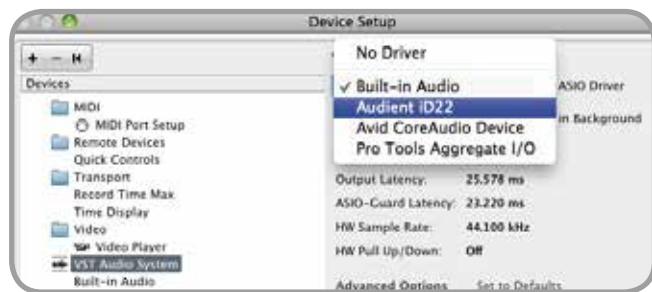
Cubase / Nuendo と使用する場合

iD22 のインストールが完了したら、下記の設定画面を開いてください。

デバイス > デバイス設定

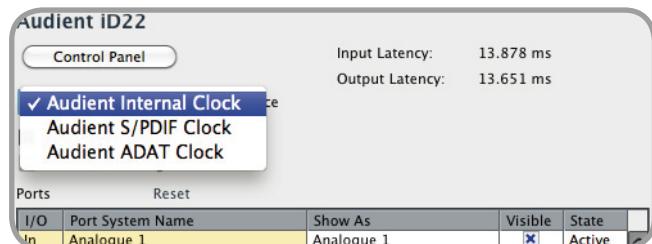


VST オーディオシステムの設定画面で、メニューから iD22 を選択して「切り替え」をクリックしてください。



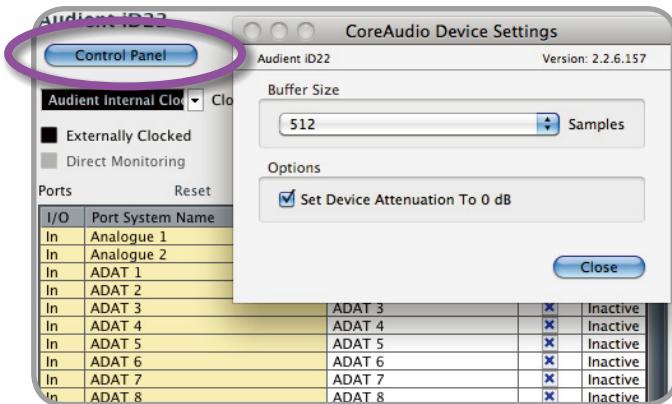
デバイスのメニューに表示される「iD22」をクリックすると、詳細設定を行うことができます。I/O のオン/オフや、クロックソースの設定をします。

外部クロックに同期する場合は、Clock Source を使用するクロックのフォーマット (ADAT / SPDIF) に設定します。



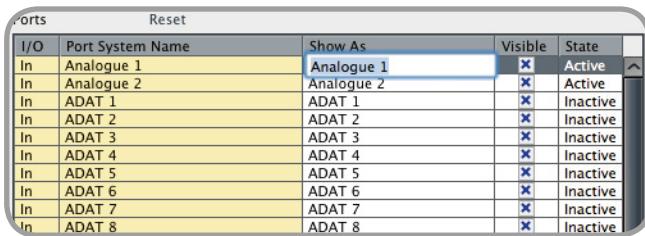
バッファーサイズの設定も、VST デバイスの画面で行います。

iD22 の DSP ミキサーを入力用のモニタリングに使用すると、コンピューターの CPU の負荷を抑えることができます。



I/O ポートの名称は変更できます。

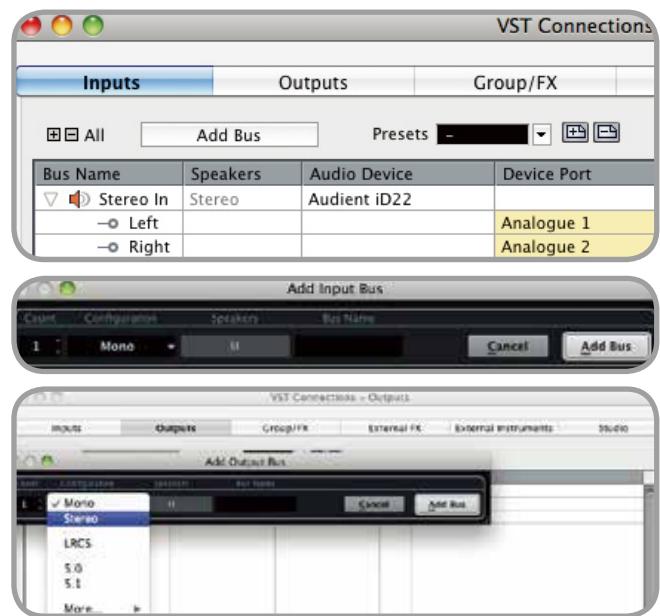
「メインモニター」「ALT モニター」など分かりやすい名前に変更すると便利でしょう。ここで変更された名称は、DAW のトラック画面上にも反映されます。



デバイス > VST コネクション (F4)



VST コネクションの画面から、Cubase / Nuendo 上で作成されたバスの確認や追加、それらがルーティング可能かの確認ができます。



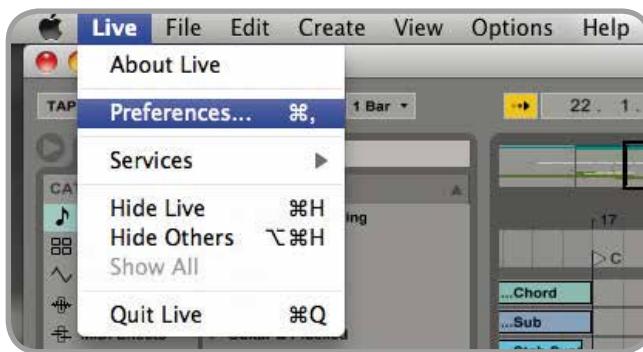
バスはモノラル/ステレオどちらでも設定でき、VST コントローラ・ルームの操作も可能です。

※ 他の設定に関しては、Cubase / Nuendo の取扱説明書をご参照ください。

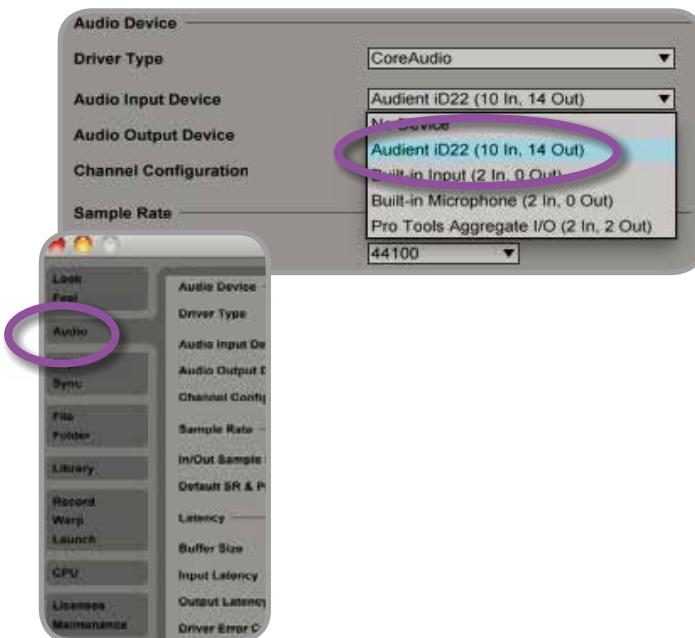
Ableton Live と使用する場合

iD22 のインストールが完了したら、下記の設定画面を開いてください。

Live > Preferences



プレイバック用デバイスの設定が iD22 であることを確認してください。

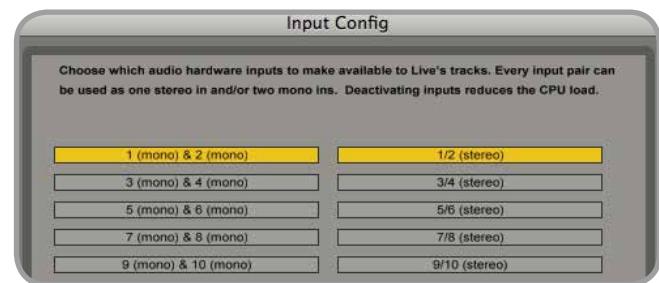


バッファーサイズの設定もこの画面で行います。

「iD ミキサー」を入力用のモニタリングに使用すると、コンピューターの CPU の負荷を抑えることができます。

iD22 が 10 入力 / 14 出力のデバイスとして認識されているかをご確認ください。

必要に応じて、「[入力設定](#)」「[出力設定](#)」から I/O の入力数を変更する事も可能です。不要なチャンネルを減らすことでも、CPU の負荷を軽減できます。



電源が入らない場合

- 電源アダプターの接続を確認してください。
- 電源アダプターが正しく動作しているか、サービスにチェックを依頼してください。

※ 技術経験のない方によるテスター等の測定器を使用した計測は絶対に避けてください。ケガや破損の危険性があります。



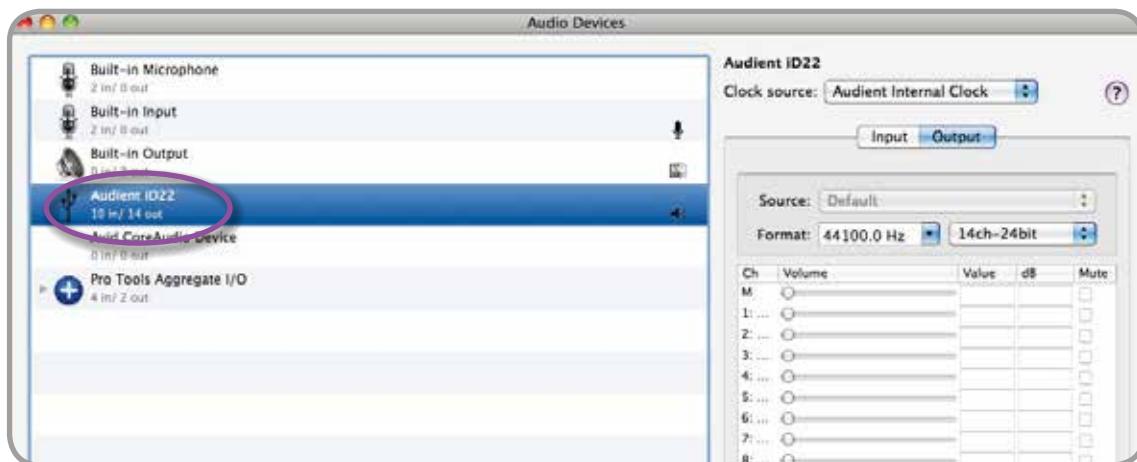
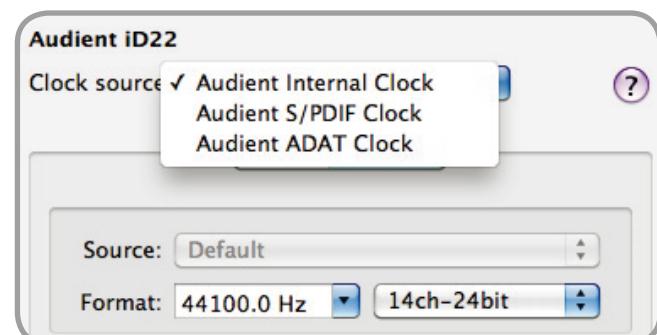
コンピューターに接続しても音が出ない場合

- USB ケーブルが正しく接続を確認してください。
- 「iD ミキサー」ソフトウェアを立ち上げ、コンピューターの本機認識を確認してください。
- DAW のチャンネル出力設定が、iD22 にアサインされているか確認してください。
- 「iD ミキサー」のフェーダーが上がっているか確認してください。
- iD22 が出力デバイスとして設定されているか確認してください。
- Mac の場合：システム環境設定 > サウンド > 出力のタブ > USB デバイス
- Windows の場合：スタートメニュー > コントロールパネル > ハードウェアとサウンド > サウンド



ProTools と外部機器のクロックがロック（同期）しない場合

- iD22 がオーディオ・デバイスとして認識されているかを確認してください。
Mac の場合 : アプリケーション > ユーティリティ > Audio MIDI 設定
Windows の場合 : スタートメニュー > コントロールパネル > ハードウェアとサウンド > サウンド
- 「iD ミキサー」上で、クロックのソースが正しく設定されているかを確認してください。内部クロックをクロック・マスターにする場合は「Internal」を、外部機器をマスターにする場合は使用している入力フォーマット (ADAT または SPDIF) を選択してください。
- サンプルレートが正しく設定されているかを確認してください。DAW の設定と「iD ミキサー」の設定 (プルダウン・ウィンドウで設定) を同一にしてください。



「iD ミキサー」の設定をデフォルトに戻したい場合

「iD ミキサー」ソフトウェアを閉じ、下記のフォルダーにある「state.xml」と表示されたファイルを消去してください。

Mac の場合 : ユーザー > ライブラリ > Application Support > Audient > iD22

Windows の場合 : C: > Program Files > Audient > USBAudioDriver

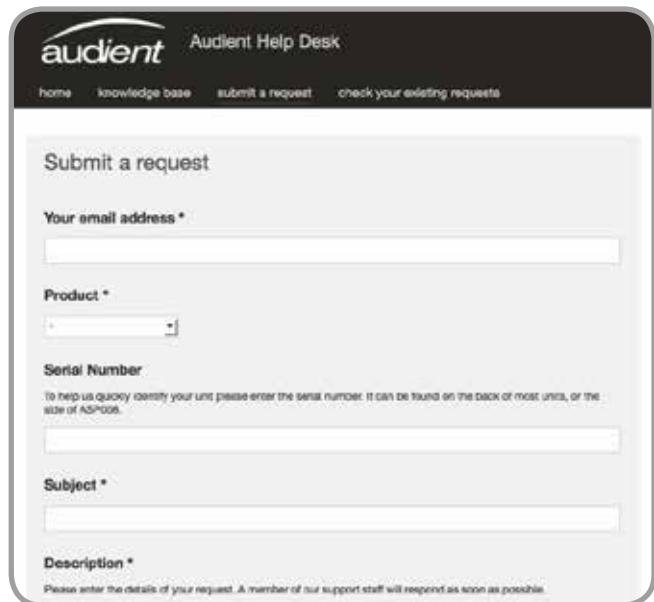
※フォルダーは消去しないでください。

Knowledge Base

Search

ファームウェアが最新のバージョンか知りたい場合

- メニューバーの「HELP」から「Check for Updates」から確認できます。アップデートも、この画面から行うこともできます。
- ホームページで最新バージョンの情報を確認できます。ファイルをダウンロードしてアップデートすることも可能です。



マイク・プリアンプ（インサート SEND で測定）

マイク・ゲイン : -10 ~ +60 dB (-10dB Pad)

ライン・ゲイン : -20 ~ +40 dB (-10dB Pad)

ファンタム電源 : 48v +/-4v @ 10mA

マイク EIN (等価入力雑音) : <-125dBu

CMRR (同相信号除去比) : >80dB @ 1kHz

最大入力レベル : +22dBu (+32dBu with Pad)

入力インピーダンス (Mic) : >3k Ω バランス

入力インピーダンス (Line) : >10k Ω バランス

周波数特性 : +/-0.5dB 10Hz to 100kHz

クロストーク : <-90dBu @ 1kHz & 10kHz

THD+N @ 0dBu (1kHz) : 0.0015% (-96dBu)

SN 比 : 96dB

ハイパスフィルター : -3dB @ 100Hz、二次フィルター (12dB /オクターブ)

XLR: ピン 2 (ホット)、ピン 3 (コールド)、ピン 1 (シールド)

1/4" ジャック: チップ (ホット)、リング (コールド)、スリーブ (シールド)

D.I (チャンネル 2 /インサート SEND で測定)

D.I ゲイン : -16 ~ +54 dB (-10dB Pad)

最大入力レベル : +16dBu (基準レベル)、+22dBu

入力インピーダンス : 1Meg Ω アンバランス

周波数特性 : 10Hz ~ 50kHz (+/-0.5dB)

THD+N @ 0dBu (1kHz) : <0.03% (-70dBu)

SN 比 : 93dB

1/4" ジャック: チップ (ホット)、リング (コールド)、スリーブ (シールド)

インサート SEND (マイク・プリアンプ OUT)

最大出力レベル : +22dBu

出力インピーダンス : <100 Ω バランス

1/4" ジャック: チップ (ホット)、リング (コールド)、スリーブ (シールド)

ADC ライン入力 (インサート Return / AES-17 に基づきオプティカル出力にて測定)

最大入力レベル : +18dBu

デジタル・リファレンスレベル : 0dBFS = +18dBu

入力インピーダンス : >10k Ω バランス

周波数特性 : 10Hz ~ Fs/2 (+/-0.5dB)

クロストーク : -100dBu @ 1kHz & 10kHz

THD+N @ -1dBFS (1kHz) : <0.002% (-94dB)

THD+N @ -6dBFS (1kHz) : <0.0015% (-97dB)

ダイナミックレンジ : 117dB 負荷なし、120dB (A 特性負荷)

1/4" ジャック: チップ (ホット)、リング (コールド)、スリーブ (シールド)

DAC 出力**(1 ~ 4 / AES-17 に基づきオプティカル入力にて測定)**

最大出力レベル : +18dBu

デジタル・リファレンスレベル : 0dBFS = +18dBu

出力インピーダンス : <100 Ω バランス

周波数特性 : 5Hz ~ Fs/2 (+/-0.5dB)

クロストーク : -110dBu @ 1kHz & 10kHz

THD+N @ -1dBFS (1kHz) : <0.0008% (-101dB)

ダイナミックレンジ : 110dB 負荷なし、114dB (A 特性負荷)

1/4" ジャック: チップ (ホット)、リング (コールド)、スリーブ (シールド)

HEADPHONE 出力**(5&6 / AES-17 に基づきオプティカル入力にて測定)**

最大出力レベル : +18dBu

デジタル・リファレンスレベル : 0dBFS = +18dBu

出力インピーダンス : <100 Ω バランス

周波数特性 : 5Hz ~ Fs/2 (+/-0.5dB)

クロストーク : -110dBu @ 1kHz & 10kHz

THD+N @ -1dBFS (1kHz) : <0.0008% (-101dB)

ダイナミックレンジ : 110dB 負荷なし、114dB (A 特性負荷)

1/4" ジャック: チップ (ホット)、リング (コールド)、スリーブ (シールド)

DIGITAL i/o:

ADAT 8 チャンネル使用可能: 44.1 ~ 48kHz 時

ADAT 4 チャンネル使用可能: 88.2 ~ 96kHz 時

STEREO S/PDIF : 44.1 - 96kHz

USB2.0 HIGH SPEED

入力チャンネル数 : 10 (アナログ × 2、デジタル × 8)

出力チャンネル数 : 14 (アナログ × 6、デジタル × 8)

USB2.0

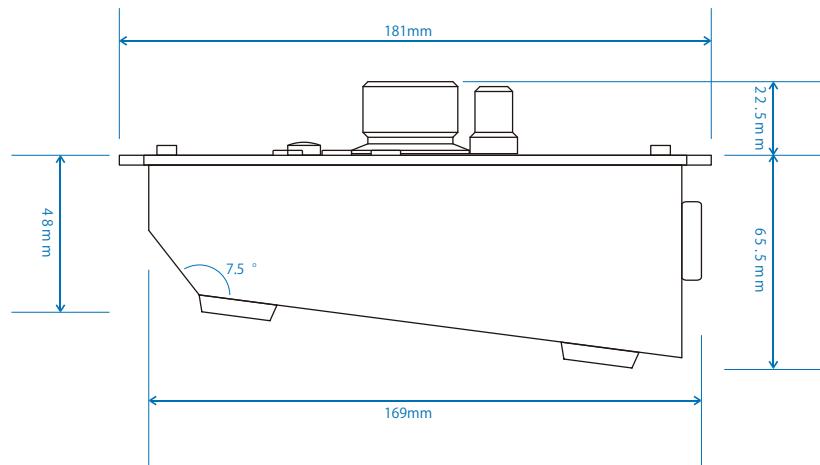
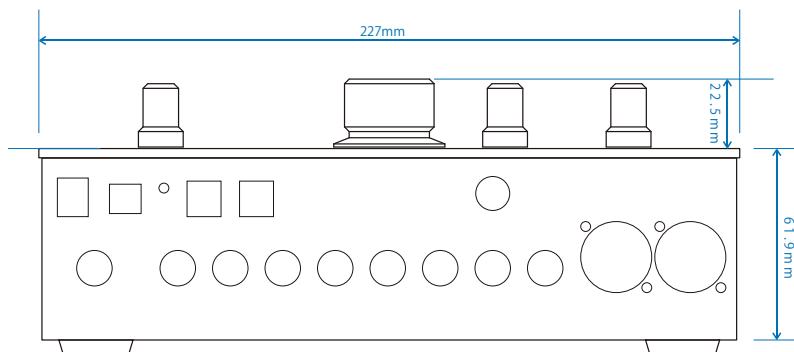
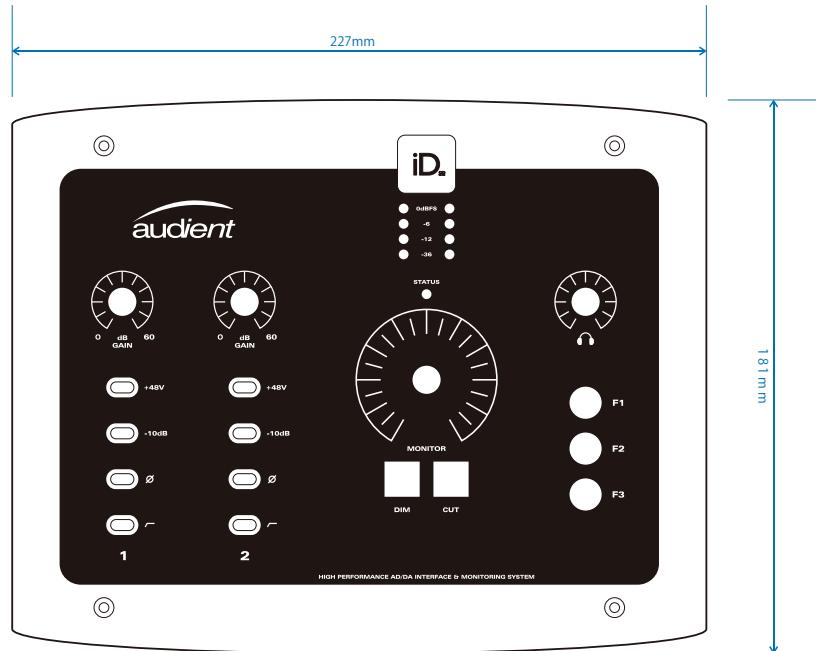
最大合計入力チャンネル数 : アナログ × 2、デジタル × 8

最大合計出力チャンネル数 : アナログ × 6、デジタル × 8

電源

12VDC、センタープラス、DC アダプター

(バスパワー供給不可)





audient 日本輸入総代理店

株式会社Hotone Japan

〒 113-0034 東京都文京区湯島 2-2-4 JP-BASE御茶ノ水 9F
TEL : 03-6820-5823

